

No	科目名	単位数	内容
1	農業市場論	2	食品の流通現場での研修、マーケティングの事例解説・実習、関連法規の理解、事業計画の手法および応用実習、コーディネート手法の実習を通じて、6次産業化に関する素養を身につける。
2	食農環境・文化概論	4	食えることと農業とは本来密接につながっており（食農）、それを取り巻く環境・文化はこの食農と切り離せない存在である。それが本来の「農」であり、「農」とは総合知である。この理念にもとづき、「農」に関わる事柄を実務経験者から直接学び、意見交換をすることによって自分の考えを持つ。
3	総合農学	8	あわらキャンパス内の圃場にて、年間を通じ実際に農作物を栽培し、収穫、加工、消費までを体験する中で、栽培技術、農作業機操作技術、加工・調理技術、簿記技術を身に付けるとともに、農作物と気象、土壌環境、他の生物との関係性を観察、理解し、実験計画法、土壌分析法、雑草・病害虫被害調査法、農作物の収量調査法、統計解析法を学習する。
4	実践農業英語	4	世界の気候、農業情勢、農作物の特性、栽培手法など、農業経営に必要な英文の情報を収集・読解し、紹介する。総合農学で自身が栽培する農作物の特性や、栽培に関する工夫などを英語で外国人に紹介する。英語発音練習を取り入れる。自己紹介、夏休み後、冬休み後に英語プレゼンテーション大会を行う。
5	育種学Ⅰ	2	植物遺伝資源、栽培植物の起源、植物の生殖様式を概説し、従来育種法について解説する。
6	食農環境実習Ⅰ	2	福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。
7	食農環境演習Ⅰ	4	食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。
8	食農環境実習Ⅱ	2	実際の「農」の現場を知るため、福井県内の現場やあわらキャンパス内圃場にて農作物の栽培、収穫、加工、消費、および共同体活動を実践する。
9	食農環境演習Ⅱ	4	食農環境実習Ⅱで実践したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また実践したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。
10	蔬菜園芸学	2	蔬菜生産において必要な生理・生態学的観点より主な蔬菜について解説するとともに蔬菜育種、施設栽培、ポストハーベスト技術、食品としての機能性や蔬菜栽培という行為が心身に及ぼす作用などについて概説し、蔬菜の種苗から生産～消費に至る基礎的な知識の習得を図る。
11	農業経営論	2	農業・食料・農村問題に対する経営・経済学的な考え方について講述し、日本の農業・農村、地域農業や農業経営が抱える諸問題と解決（政策）の方向について考えます。食品マーケティング、6次産業化も扱い、実践性を重視した実習的要素を加えます。

No	科目名	単位数	内容
12	花卉園芸学	2	花卉園芸学の意義を理解し、生理学や育種学等に基づいた花卉の基礎知識および、主要な花卉品目における切り花生産技術やその利用等を習得する。また花卉を材料とした育種技術（交雑育種や遺伝子組換え技術）について解説する。
13	微生物利用学	2	微生物は様々な分野で有効に利用されているが、一方で病気や食中毒、工業製品の品質劣化という問題も引き起こす。本講義では、微生物の基礎と応用技術、アルコール飲料・調味料・発酵食品・機能性食品生産における微生物の利用、各種有用物質の発酵生産、病原菌の理解、食品の品質・安全管理技術、環境浄化と物質循環の基礎、土壌微生物の理解と農業利用について解説する。
14	先端農業技術活用論	2	先端的な農業技術（IoT、AI、GPS、ドローン、機械学習、衛星利用、農業資材、育種技術、施設園芸、植物工場等）について実践的に活用している講師をオムニバス形式で招き、それらの現在の活用方法を学び、未来型農業の実現のためにこれらの技術をどう活用するか、さらにどんな技術を求めるかを議論する。
15	総合的生物多様性管理論	2	農業の3大リスク（害虫、病気、雑草）の防除には様々な方法がある。また農業には食糧生産という側面と生物多様性保全という側面がある。これらを総合的にとらえ、最適な管理方法を考えるのが総合的生物多様性管理（IBM）である。本講義ではオムニバス形式で、防除の現場担当者、生物多様性保全の研究者を招き、現実的かつ最新の管理方法を学ぶとともに、これからの農業を取り巻く産業構造の在り方について議論する。
16	植物病理学	2	植物は人間や動物と同様に、さまざまな病原体に脅かされている。中でも人間の嗜好にあうように改良されてきた多くの農作物は、野生植物にくらべ病原体に侵されやすく、安定に供給するためには病気に対する防除法を確立する必要がある。そこで本講義では、植物を病気から守るために必要な知識の修得を目的として、植物に病気を引き起こすさまざまな病原体の性質・伝染様式、植物と病原体との相互作用における感染生理、バイオテクノロジー技術を含めた防除法などを学習するとともに、最新の話題を随時取り入れて講述する。
17	植物生理学Ⅱ	2	植物が無機炭素、無機窒素などをどのように栄養源として取り込み、エネルギー源としているか講義する。 毎回、前回の授業内容に関する小テストと解答説明を約30分間程度行う。 その後、後半約60分間程度、講義する。
18	農業インターンシップⅠ	1	夏季休暇中（8月～9月）や土・日曜日を利用して、農作物生産現場において実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。
19	農業インターンシップⅡ	1	夏季休暇中（8月～9月）や土・日曜日を利用して、キャリア形成に向けた実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。
20	蔬菜園芸学実験	1	蔬菜生産や利用の現場で直面する様々な課題に対応するためにまず必要となるのは客観的な現状把握である。その基礎となる科学的なものの見方と考え方を涵養するため、圃場～遺伝子まで各レベルで起きていることを観察、調査、分析するための手法について学び、体験する。

No	科目名	単位数	内容
21	花卉園芸学実験	1	キク等における無菌培養・再分化技術の習得、交配実験、遺伝子組換え技術などの育種技術を実践し、花卉類の新品種育成に関する具体的イメージを体得する。
22	育種学実験Ⅰ	1	ムギ類を材料に用い、交配実験、DNAの単離、DNAマーカーの実験を体験する。
23	植物保護学実験	1	植物はさまざまな環境因子に対して動的に適応する独自の能力を備えている。本実験では、病原菌感染や土壌条件などの環境因子に対する植物応答の解析および実験の基礎を教示する。
24	微生物利用学実験	1	微生物を取り扱う実験の基本操作や酵素活性の測定方法を習得する。また、総合討論やレポート作成を通して、実験に対する姿勢を身につける。
25	地域農政学実験	1	地域の食料、農業、農村環境における諸問題を解決するために実施された政策について、政策を立案した自治体やその政策を実施した農業者・集落などに対し、聞き取り調査やアンケート調査を実施し、その効果検証と政策立案方法について学習する。また、政策を活用した農業経営計画づくりについて理解する。
26	地域農政論	2	食料・農業・農村環境における諸問題の現状を国レベル、地域レベル別に理解した後、国の定めた「食料・農業・農村基本計画」と福井県の定めた「次代へつなぐ希望あふれるふくいの食・農・環境計画」を比較する。また、農業者や消費者のニーズを捉え、地域における風土や歴史、伝統を活かした政策立案、提言の方法を学習する。
27	地域森林利用論	2	森林・林業、木材産業における現状と課題および政策の実施内容について、国レベル、県レベル別に理解を深める。また森林生態や林業技術、木材利用、特用林産物などに関する基礎知識を座学と現地研修により学習する。
28	農業戦略論	2	企業による農業ビジネスや種苗ビジネスの戦略から酪農や有機農業、農産物の小売、卸売、共同販売などの経営・販売戦略まで、実際に起業している経営者らを講師に招き、農業経営、企業経営などの経営戦略を理解し、広く農業の戦略について考える。また、その前段階として世界の食料問題を考察する。
	創造農学科 計	62	